

日時: 令和7年12月8日(月)10:00-11:00

形式: zoomによるオンライン会議

出席者: 鈴木基史、石田淳、大芝亮、古城佳子、武田康裕、中西寛、都丸潤子、栗栖薫子

欠席者: 亀山康子、竹中千春、宇山智彦

配布資料

資料1 別紙7「講演会、シンポジウム等の概要について(事後報告)」

資料2 「法人化に関する対応状況と今後の予定」

資料3 Springer, Author Questionnaire (Book Proposal)

資料4 日本学術会議法(国会可決済)

議題

1. 今期の実施済み活動報告

資料1に基づき、公開シンポジウム「戦後80年の国境横断ガバナンスの形成と変容—開放と閉鎖の相克—」(9月27日、青山学院大学)についての実施報告がなされた。シンポジウムには8名が登壇し、フロアには対面参加が40名、オンライン参加が45名ほどあり、活発な議論が行われた。任期期間が限られるため、本シンポジウムの成果公刊は予定していない。

2. 第195回日本学術会議総会の審議内容、とくに会員・連携会員(仮称)の選出方法・任期、予算、今後の審議の方針などを議題としつつ、委員間の意見交換

資料2ならびに資料4に基づき、新法可決後の、法人化に関する対応状況と今後の予定について説明がなされた。また、付帯決議の内容、法人化準備(連携会員についての新体制を含む)の状況等について説明がされた。委員間の意見交換においては、安定した活動を継続するためには事務局による支援体制の確保が必要であるとの指摘があった。

3. 今期の活動予定

4. 来年度の活動計画

議題3ならびに4をあわせて議論を行った。今年度は残された期間が短いいため新たな活動は予定していないが、「迷走する国際秩序と人道危機」シンポジウム(2024年10月)の成果を書籍として公刊するための活動を、引き続き進めていく。国際的な学術活動を展開する上でも、本書籍の公刊を来年度の活動の重要な柱の一つとして位置付ける。資料2に基づきBook Proposalの内容が共有され、出版社からの

返答が12月中旬に届く予定であるとの説明がなされた。

例年3月に開催される分科会会合については、法人準備委員会からの動きがあれば開催するが、現時点では、4月の総会による方針決定以後に開催予定である。

5.その他

議事録作成者 栗栖薫子